

2010年度 高校入試

学校情報FLASH!!

CHAPTER. 4

(2009. 10. 5)

成基コミュニティ 学校情報室

公立高校の基礎知識 ～ 京都・滋賀・大阪 ～

6月発信のCHAPTER 1でもお伝えしました通り、今回は、「公立高校基礎知識～京都・大阪・滋賀～」としまして、京都府や大阪府、滋賀県の公立高校の詳しい選抜方法などをお伝えします。

2010年度入試 入試日程

● 滋賀私立:2月 2日(火) 開始

滋賀 特色・推薦:2月5日(金)

● 奈良私立:2月 6日(土) 開始

● 京阪私立:2月10日(水) 開始

京都 適性検査:2月15日(月)

京都 特色・推薦:2月16日(火)

大阪 前期選抜:2月23日(火)・24日(水)

京都 一般選抜:3月5日(金)

滋賀 一般選抜:3月9日(火)

大阪 後期選抜:3月16日(火)

左の図は、大まかな2010年度入試日程です。ご覧ください。

中学3年生には、10月下旬に「高校入試データブック―確定版―」を配布します。各高校の入試要項などを掲載していますので、そちらをご覧ください。

それでは、京都、滋賀、大阪の順に公立高校の選抜についてご説明いたします。

京都公立編

京都では、公立高校を志望する場合、限られた通学圏内の数校から入学高校を選ぶ状況が続いていましたが、この10年でその状況は大きく変化しています。今では、**堀川高校**を始めとする特色ある学校や進学指導に力をいれて大学合格実績で大躍進を見せる学校が数多くあります。さらに、09年度入試からは、京都市・乙訓地区の東西南北4通学圏が南北の2通学圏になり、ますます公立高校の選択肢が広がることになりました。

ここでは、人気の専門学科と09入試で選抜方法に変化のあったⅡ類Ⅰ類の選抜方法について、説明いたします。最終ページには、次年度の京都府公立高校の入学選抜日程を掲載しています。参考にしてください。

【 専門学科・適性検査の受検が必須です！ 】

専門学科は、Ⅰ類やⅡ類などの普通教育をより高度に拡充させた専門教育を行う学科で、その内容は学校によって異なります。堀川高校探究学科群や西京高校エンタープライジング科、嵯峨野高校京都こすもす科、桃山高校自然科学科、山城高校文理総合科、亀岡高校数理科学科、塔南高校教育みらい科などがあります。

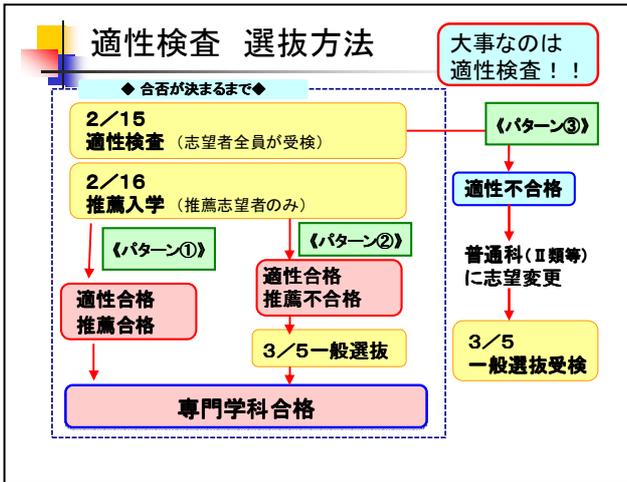
専門学科に通学圏は関係なく、京都府在住者であれば受検が可能です。適性検査は、内申点は関係なく、当日の検査結果のみで合格判定されます。適性検査の試験科目は、学校によって異なります。堀川高校探究学科群は、次年度2010年度入試では主要5科目の入試(国数社理英)になります。

左の図のように、専門学科合格には、適性検査の受検が必須です。10入試でいうと、専門学科志望者は、2/15に適性検査を受検します。さらに、中学校長の推薦をもらえた人は、2/16に推薦入学を受検します。2/19に中学校長を経由して、適性検査と推薦入学の結果が通知されます。

「適性検査と推薦入学の両方合格」(パターン①)であれば、その時点で合格内定となります。「適性検査のみ合格」(パターン②)であれば、3/5の一般選抜を受検し、専門学科合格となります。

「適性検査と推薦入学の両方合格」の場合も「適性検査のみ合格」の場合も、3/16の一般選抜の合格発表のときに一緒に発表されます。適性検査で合格して、一般選抜で不合格となる受検者は、ほとんど聞きません。

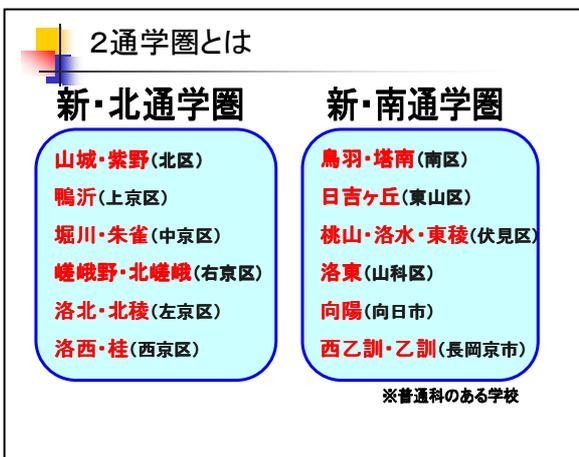
「適性検査不合格」(パターン③)となった場合は、改めて3月の一般選抜で普通科(Ⅱ類Ⅰ類等)を受検することができます。



【 京都市北通学圏・京都市南通学圏の選抜方法(Ⅱ類・Ⅰ類) 】

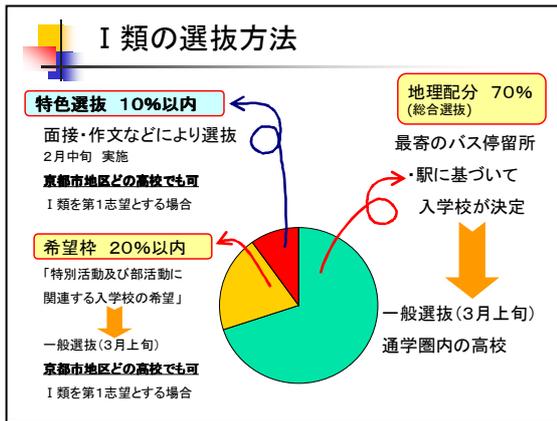
前年度09入試から、京都府の公立高校が京都市・乙訓地区の東西南北4通学圏が南北の2通学圏に学区統合されました。さらに、Ⅱ類Ⅰ類の入学者選抜で、今まで不可能だった通学圏を越えた志望が可能になりました。通学圏の高校区分けは、下の図をご覧ください。

それでは、Ⅱ類とⅠ類の選抜方法について、それぞれ説明します。



「Ⅱ類の選抜方法」

Ⅱ類の入試は、09入試以前通り、3月上旬(10入試では3/5)の一般選抜1回ですが、定員50%までは、他通学圏からの入学(北→南・南→北)が可能となりました。ですので、Ⅱ類の募集は、実質的には「京都市乙訓一区になった」と言えます。Ⅱ類は、Ⅰ類の総合選抜とは異なり、志望する学校を1つ選ぶ方式(単独選抜)です。



「I 類の選抜方法」

I 類の募集定員に対する選抜方法の割合は、左の円グラフでご確認ください。

I 類の選抜は今まで3月上旬の一般選抜1回のみでしたが、09入試からは、2月中旬の「特色選抜」と3月の「一般選抜」の2回です。

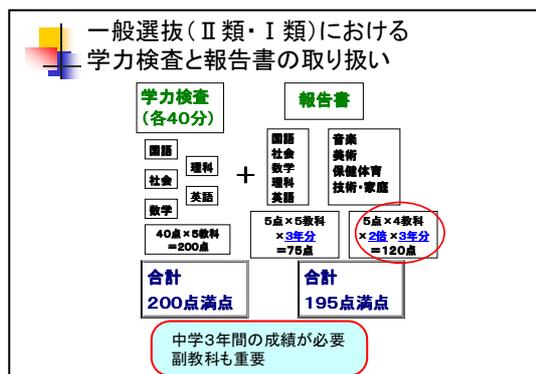
2月の「特色選抜」は、推薦選抜と同日程(10入試では2/16)で行われます。特別活動・部活動など各高校がその特色を示して生徒を募集するもので、定員は各高校I類定員の10%以内です。学区に関係なく、好きな学校を選び、作文・面接の試験科目で、受検します。しかも、専門学科の適性検査とは違い、2月に正式な合格が出ます。ただし、専門学科やII類との併願受検はできませんので、注意が必要です。

さらに、3月上旬の一般選抜では、定員を2つの形態で募集します。希望枠として定員の20%、地理配分枠として定員の70%を募集します。希望枠とは、特別活動及び部活動に関連する募集で、通学圏に関係なくどの高校でも志望することができます。また、地理配分とは、先に通学圏全体の合格者を決定し、その後、自宅の最寄のバス停を基準に入学高校を決定するというものです。詳しくは、中学校の先生にご確認ください。

【 山城通学圏・口丹通学圏・中丹通学圏・丹後通学圏の選抜方法 (II類・I類) 】

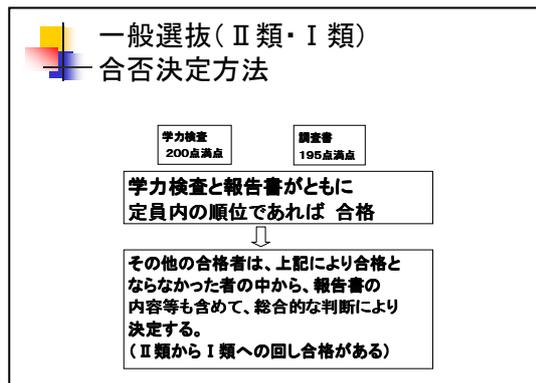
山城通学圏では第I類・第II類を一括募集しています。次年度からは、口丹通学圏・中丹通学圏・丹後通学圏も一括募集を実施することになりました。一括募集とは、受検生が出願時に希望の高校を選びます。普通科を第1志望とする場合は第1志望の中で順位をつけて2校まで、入学したい高校を希望できます。各高校で合格者を決定した後に、学力検査と報告書、希望を踏まえて類に振り分けられます。自分の受けたい高校を選ぶ事が出来、自分に合った高校選びが出来るのが特徴です。ただし、「この高校のII類のみ志望、I類合格なら私学へ行きたい」ということはできません。

【 II類・I類の判定方法 ～全ての通学圏共通～ 】



前述した通り、専門学科の適性検査と推薦入試に報告書は必要なく、当日の検査のみで選考されます。しかし、3月の一般選抜は報告書と当日の学力検査で選考されます。

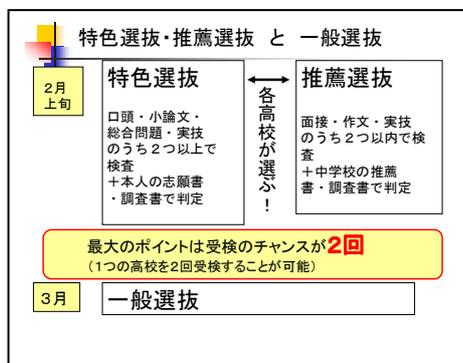
II類とI類の一般選抜(3月上旬)は、当日の学力検査得点(200点満点)と中学校からの報告書(195点満点)との総合成績(395点満点)を基に判定が行われます。学力検査は、京都府全域の全科・全類型とも同一問題で実施し、検査教科は国語・社会・数学・理科・英語(ヒアリングテストを含む)の5教科各40点満点です。また報告書は評定値(5段階)のうち学力検査がある5教科は合計75点満点、実技4教科は合計120点満点で計算されます。



報告書は、中学1～3年次の定期テストや小テスト、実技、授業態度、宿題の提出状況などを考慮して、教科ごとに5段階の絶対評価によって評定値がつけられます。中でも、副教科は、報告書での比重が高い(主要5科の2倍)ので、注意しましょう。

滋賀公立編

【 滋賀県公立高校・・全県一区が定着！ 】



ご存じの通り、06入試から全県一区になり、特色選抜という新しい独自入試が始まりました。

以前は、通学区域内のいくつかの高校から志望校を選んでいましたが、全県一区になり、自分の行きたい県立高校を受検できるようになりました。

さらに、以前は、推薦選抜と一般選抜のみの選抜で、ほとんどの人が一般選抜のみを受検していました。しかし、06入試からは「特色選抜」が加わり、多くの人が、2月の「特色選抜・推薦選抜」と3月の「一般選抜」の2回、入試を受けるようになりました。

最終ページに、次年度の滋賀県公立高校の入学者選抜日程を掲載しています。参考にしてください。

【 特色選抜と推薦選抜 】

全日制の課程では、学校または学科によって推薦選抜または特色選抜のいずれかを実施します。どちらを実施するかは、各高校が選択しますが、難易度が高い高校では特色選抜を実施する学校の方が多い状態です。募集枠は、いずれも募集定員の50%以内を原則として各高校で定めています。

特色選抜は、各高校の特色に応じて各校が独自の検査を行い、選抜します。志願者は全員が「志願理由書」を提出します。試験は、口頭試問、小論文、実技検査または総合問題のうち2つ以上を実施して行われます。どの検査方法を選択するかは、高校の選択に委ねられていますが、総合問題と小論文を選択する学校が多いです。選抜は、それらの結果と個人調査報告書を資料として行います。

推薦選抜は、高校または学科の推薦要件に適し、中学校長の推薦を受けた志願者が出願できます。推薦選抜は、面接・作文・実技のうち2つ以内の検査と、中学校の推薦書・調査書で判定します。学力検査は行いません。選抜はそれらの結果、および個人調査報告書、推薦書を資料として行われます。

なお、推薦選抜・特色選抜ともに、合格した場合、3月の一般選抜を受検することはできません。

【 一般選抜 】

一般選抜で出願できるのは1人1校、1課程、1学科または1科限りです。ただし出願先高校の同一課程に2以上の学科または科が設置されている場合には、これを第2または第3志望とすることができます。ただし膳所・長浜・草津東・栗東・米原の各高校への出願については、普通科の専門学科を区別せずに出願するものとし、両方またはいずれかの学科を志望することが可能。また石山高校・音楽科への出願は、適性検査に合格することが条件となります。

志願者は出願後、1人1回に限り、志望する高校、課程、学科または科を変更することができます。出願変更をしようとする志願者は、出願変更願を、中学校長を経て出願先高等学校長に提出します。

特色選抜の特徴

- 募集枠が定員の15～30%(普通科)
- 合否は入試得点:内申点=7:3で判定
(高校によって異なる)
- 特色選抜は総合問題(2題)
 - ⇒ 難易度が高い
 - ⇒ 1つの問題の中に複数教科の内容が含まれる
 - ⇒ 各高校によって、問題が異なる
(ただし、ある程度の共通性はあり)

大阪公立編

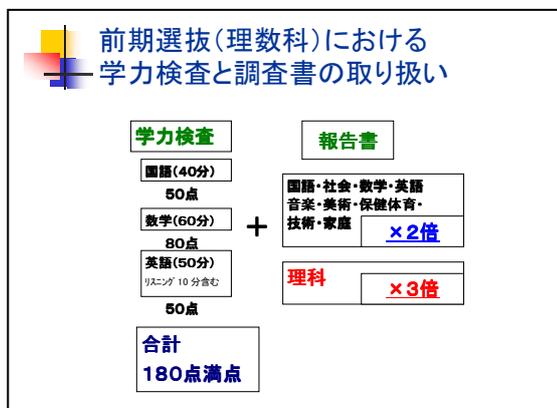
大阪府の公立高校では、2007年に学区統合が行われ、従来の9学区から4学区に再編されました。京都や滋賀でみられるような特色選抜や推薦入試はなく、学科により前期・後期に分けて選抜を行っています。

学力検査は、各学校が採点し、各高等学校長が合否判定を行います。

大阪公立入試について

- 入学者選抜
 - ◎前期入学者選抜
 - 専門学科
 - 普通科 総合選択制・単位制
 - 総合学科
 - ◎後期入学者選抜
 - 普通科
 - 多部制単位制

【 前期入学者選抜 ～普通科総合選択制・普通科単位制高校・専門学科・総合学科～ 】



普通科総合選択制・普通科単位制高校・専門学科・総合学科の志望者は、2月下旬に実施される前期選抜を受検します。

左の図のように、理数科などの専門学科の学力検査は国語・数学・英語（リスニングテストを含む）の3教科で行われ、合否判定の資料となるのは学力検査等（学科によっては実技も加わる）の合計得点と調査書（1月末現在）中の各教科の評定を合計した総合点です。学力検査は学科の特色に合わせ、傾斜配点となっているケースもあります。合否判定の方法は普通科と同じです。

また、普通科総合選択制、普通科単位制、総合学科の選抜は調査書、学力検査(国数社理英各50点)、小論文の成績および面接によって行われます。学力検査は、受検者ごとに得点上位2教科の得点を2倍した合計350点満点で、小論文は100点満点です。調査書は指定倍率が高校ごとに異なります。

合格者の決定は、まず総合点の上位から120%の人数までを選抜します。次に、その中から上位80%までを合格者とし、残りをボーダーゾーンとします。さらに、ボーダーゾーンの中から高校ごとの基準により、残り20%の合格者を選抜します。面接はボーダーゾーン内の選抜資料に加えられます。

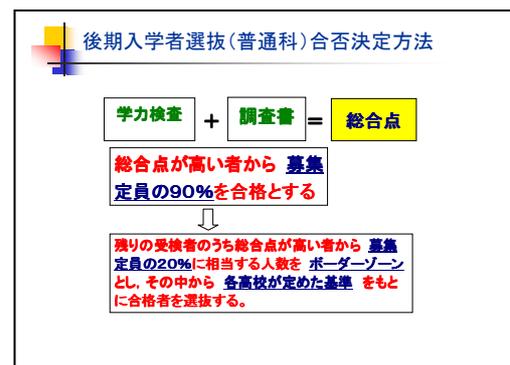
なお、前期選抜で合格した生徒は、後期選抜に出願することはできません。

【 後期入学者選抜 ～普通科・多部制単位制高校・定時制～ 】

普通科（普通科総合選択制・普通科単位制を除く）・多部制単位制高校・定時制の志望者は、3月中旬の後期選抜を受検します。

普通科の選抜は、学力検査（5教科）の成績（満点は普通科400点、普通科総合選択制350点、普通科単位制高校は250点）に調査書の評定を加算した総合点を主な資料として行われます。

多部制単位制（クリエイティブスクール）と定時制課程の志望者は3教科を受検します。



調査書と学力検査の比重のかけ方には3つのタイプがあり、各高校がいずれかを選択します。「4：6」（タイプⅠ・学力重視型）、「5：5」（タイプⅡ・従来型）、「6：4」（タイプⅢ・内申重視型）です。各高校がどのタイプで選抜を実施するかについては、9月下旬に公表されます。

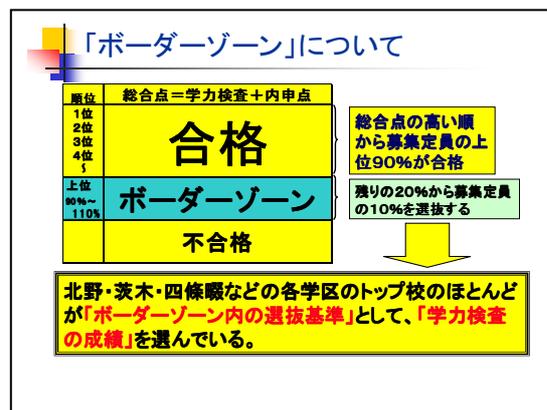
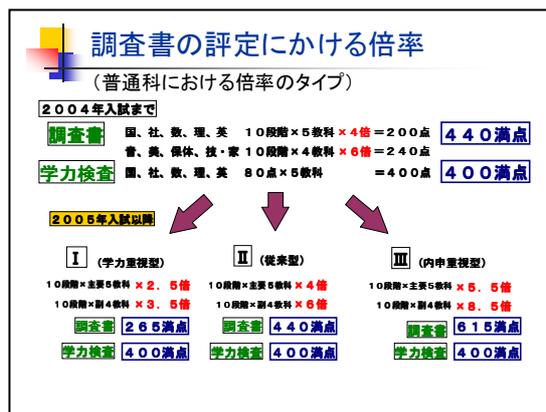
合否判定は、まず総合点の高い順に募集人員の110%にあたる受検生までを選抜します。次に、その中から総合点の上位者90%にあたる人数を合格者とし、残り的人をボーダーゾーンとします。そして、ボーダーゾーンの中から募集人員の残り10%の合格者が選抜されます。

【 ボーダーゾーンについて 】

ボーダーゾーン内の合格者の決定基準は、「Ⅰ：調査書中の各教科の評定を資料とする」、「Ⅱ：学力検査の各教科の成績を資料とする」、「Ⅲ：調査書中の各教科の評定および学力検査の各教科の成績のいずれも資料とする」の3つに大別されますが、各高校によって基準は様々です。これは、特色ある学校づくりをするために設けられているものです。

右図のように、各学区のトップ校は、ほとんどがⅡの学力検査重視の方法で、ボーダーゾーンの選抜を実施しています。

なお、高校によっては、配点などが前年度と変わる可能性もありますので、詳しくは、秋口以降に教育委員会から発表される「選抜実施要項」で確認してください。



【 調査書について 】

調査書の評価方法

「相対評価」・・・学年内の順位を基準に評価
 9教科について10段階表示

評定	10	9	8	7	6
比率	3%	4%	9%	15%	19%
評定	5	4	3	2	1
比率	19%	15%	9%	4%	3%

9教科オール8とすると内申点はI型だと?
 主要5教科×8点×2.5倍+副4教科×8点×3.5倍=
オール8なら212点
オール9なら238.5点

中学校から高校に提出される調査書は、中学3年次で学習する9教科それぞれについて、定期テストのほか日頃の小テスト、実技、授業態度、宿題の提出状況などを考慮しながら、教科ごとに10段階の相対評価によって評定がつけられます。

下の図のように、6と5の評価を受ける人数が最も多く、そこから上位と下位に左右対称に決められた比率でそれぞれのランクの人数が決まります。調査書の扱われ方は学科・課程によって異なります。

【 進学指導特色校の設置 】

ニュース等でご存じの方も多いと思いますが、平成23年度入学生から、府立高校10校に専門学科が設置されます。

生徒の学習ニーズや保護者・府民の府立高等学校における進学指導の充実を求める声にこたえるため、大阪府立高校の特色づくりの一環として、府立高校の10校を「進学指導特色校」として、進学指導に特色を置いた専門学科が設置されます。前述の通り、平成23年度入学生から募集開始ですので、現在中学2年生の方は対象者です。専門学科設置予定の学校は、右の図をご覧ください。

専門学科は普通科との併置で、定員は各学校1学年4クラス160名です。前期選抜で、府内全域から生徒を募集します。募集は専門学科として一括で行いますが、入学後は、文科(人文・国際)と理科(理数・自然科学)に分かれます。

元々、公立志向の強い大阪ですが、公立高校人気はますます高まりそうです。

進学指導特色校(専門学科設置校)

学校名
北野
豊中
茨木
大手前
四條畷
高津
天王寺
生野
三國丘
岸和田

平成23年度
から
募集開始!!

大阪府立トップ校が
勢揃い!
府内全域から受検
可能!!

【 資料1:京都市立高校 入試日程カレンダー 】

月	全日制・定時制				
	特別入学選抜 [海外23府立府立女子大 中園輝陽館女子大 長狭文華館 成人]	適性検査 (音楽科)	適性検査	推薦入学 特色選抜	一般選抜
11月					
12月					
13月					
14月					
15月					
16月					
17月					
18月					
19月					
20月					
21月					
22月					
23月					
24月					
25月					
26月					
27月					
28月					
29月					
30月					
31月					
1月					
2月					
3月					
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
13月					
14月					
15月					
16月					
17月					
18月					
19月					
20月					
21月					
22月					
23月					
24月					
25月					
26月					
27月					
28月					
29月					
30月					
31月					

【 資料2:滋賀県公立高校 入試日程カレンダー 】

月	全日制	
	推薦・特色選抜	一般選抜
1月	27(水) 出願 28(木)	
2月	5(金) 推薦選抜 特色選抜 15(月) 入学許可 予定者通知	23(火) 出願 24(木)
3月	16(火) 入学許可 予定者発表	2(火) 出願変更 4(木) 9(火) 学力検査 10(水) 《実技検査》 16(火) 入学許可 予定者発表 17(水) 二次選抜 出願 18(木) 23(火) 二次選抜 検査 25(木) 二次選抜 発表

～まとめ～

今回は、11/4発行予定です。ほとんどの方が私立高校を受験されることと思います。今回は、「私立高校の基礎知識」をお伝えいたします。